

FRANCHET ハ *Chr. album* MAXIMOWICZ ニ比シ、雄蕊ガ萼片ヨリ超出スル點ヲ異ニスルノミノ如クデアル。 昭和 9 年 1 月 30 日 脱稿。

## ゐのこづちトひなたゐのこづち

奥 山 春 季

S. OKUYAMA: *Achyranthes japonica* NAKAI and

*A. Fauriei* LEV. et VNT.

1932 年ノ秋、須田光衛氏ヨリゐのこづちニ就テノ質問ヲ受ケタ。其要旨ハ吾人が單ニゐのこづちト呼稱スルモノニ二ツノ型ガアルト云フノデアル。ゐのこづちは花部ガ細カイ爲メニ特徴ノツカマヘ所ノナイ、ヤヤコシイモノデアルガ、此ノ事ガ動機トナツテ余ハ少シク *Achyranthes* 屬ヲツツイテ見タ所、二三興味アル結果ヲ得タ。然シ此處ニハ、一般ニゐのこづちトシテ混同サレテ居ル 2 種丈ニ就テノコトノミ記ス事ニシタ。

私ハ主ニ東京近郊産ノモノニ就テ最近 2 ケ年ニ互リ觀察シ又東京科學博物館所藏ノ標本ニモ當ツテ見タ結果兩者ノ區別點トシテ

1) 生育地、2) 根、3) 葉形、4) 萼片ノ長サ、5) 萼片ト小苞片ノ長サノ割合、6) 小苞基脚ノ突起、7) 假



第 1 圖 ゐのこづち *A. japonica* NAKAI  
(武藏嵐山産)

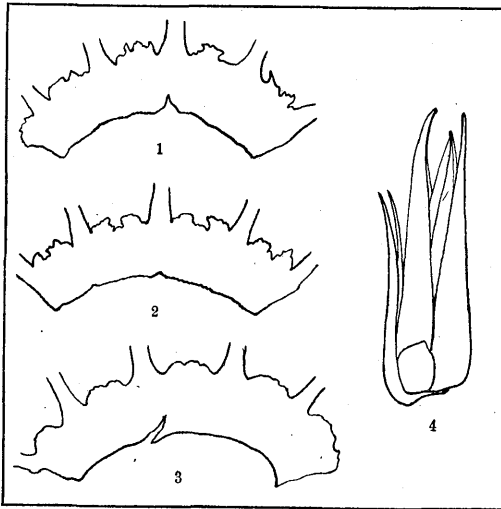
雄蕊ノ形狀、

等ヲ考慮スベキデアル事ヲ認メタ。殊ニ假雄蕊 (Staminodia) ノ形狀ヲ重要ナル特徴ト認メ、尙外形ニヨリ區別スル場合ニハ小苞基脚ノ突起ノ大キサヲ注意スル事ニヨリ容易ニ區別出來ル事ヲ知ツタ。假雄蕊ハ約 60 倍ニ擴大シテ觀察シタモノデアルガ、腊葉トナレルモノヨリ假雄蕊ト雄蕊トガ連ナツテ居ル完全ナモノヲ取出ス事ハ餘程熟練ヲ要スル。

其後、種々文献ヲ調査シタ結果、其一ヲ *Achyranthes japonica* (MIQ.) NAKAI 其二ヲ *A. Fauriei* LEV. et VANT. ニ當テ區別スベキモノデアラウトノ結論ニ達シタ。依ツテ以下其二者ヲ比較シテ見ヨウ。

### ゐのこづち *Achyranthes japonica* (MIQUEL) NAKAI

1) 生育地 一般ニ林ノ中ノ如キ陰地ニ生育スル。



第 2 圖 ゐのこづち *A. japonica* NAKAI

1—3. 假雄蕊: 1. 山城産 (花期ノモノ)。2. 武藏嵐山産 (果時ノモノ)。3. 武藏袋村産 (果時ノモノ)。4. 武藏嵐山産ノ果實 (苞ヲ除ク)。× ca. 30

5) 萼片ト小苞片ノ長サノ割合 果時ニ於テ 5:4 位デアル。

6) 小苞基脚ノ突起 次ノ者ニ比シ頗ル顯著デアツテ、之ハ外形上ノ區別點トシテ重要ナ特徴デアル (第 2 圖 4)。

7) 假雄蕊 MIQUEL ハ “*Staminodia brevissima in flore obsolete bidentata in fructu erosa vel subintegerrima*” (Ann. Mus. Bot. Lugd. Bat. II, p. 132

2) 根 發達悪ク、瘦セタ數條ノ根ヲ張ル。地上部ノ生育頗ル良好ナルモノデモ根部ノ發達悪ク、次者ニ於ケルガ如キ肥厚セル根ハ無イ。

3) 葉 勿論莖ノ下部ニ着生スルモノト、梢部ニ着生スルモノトハ大小、形狀等ニ多少ノ差ハアルガ一般ニ橢圓形或ハ橢圓狀披針形又ハ倒卵形デ、基脚ハ銳尖形、葉頭ハ長キ銳尖頭又ハ銳尖頭ヲナス。葉質ハ薄ク、毛ハ個體ニヨリ差アルモ一般ニ少ナイ。

4) 萼片ノ長サ 4-5mm.

*A. bidentata* var. *japonica* Miq. ノ記載)ト記シテ居ルガ、私ノ觀察ニ依レバ、花時ノモノニハ稍不整齒牙狀ヲナスモノモアルガ、一般ニハ凹頭ヲナシ又ハ凹頭ヲナサズ、僅カニ花絲間ニ突出スルモノモアル(第2圖1,2,3)。然シ其ノ他ノ形狀ガ MIQUEL ノ記載ニ一致スルノデスク同定シタノデアアル。尙コレハ *A. bidentata* BLUME ニ近イモノデアアルガ原記相文ガ簡單デ假雄蕊ノ記載ハ無イ、亞灌木トスル點以外、大體一致シテシマウ。然シ MOQUIN ガ DE CANDOLLE ノ *Prodromus Systematis Naturalis Regni Vegetabilis Pars XIII pt. 2, p. 312*ニ詳記シテ居ルノヲ讀ムト“*Staminodia brevissima, truncata, margine eroso-sinuata, dorso inappendiculata*”トアルノデ、



第3圖 ひなたゐのこづち *A. Fauriei* LEV. et VNT.  
ノ果時ノモノ(武藏石神井産)

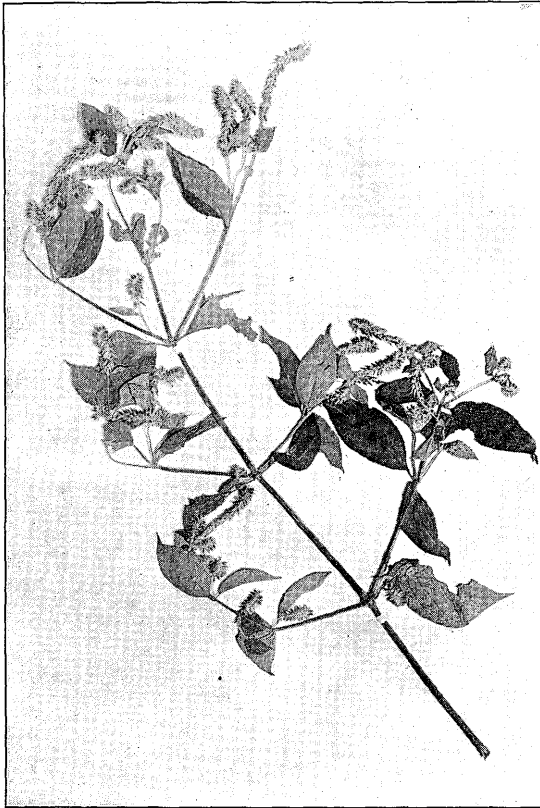
同一トハ認メラレナイシ又ヨク引用サレテ居ル WIGHT ノ *Icones Plantarum India Orientalis* デ假雄蕊ノ圖ヲ見ルト、ムシロ、次ノ *A. Fauriei* ニ近イモノデアアル。然シ私ハ之ヲ獨立種ト認メラル、中井博士ノ高説ニ從フモノデアアル。

### ひなたゐのこづち(新稱) *A. Fauriei* LEV. et VANT.

- 1) 生育地 一般ニ路傍ノ如キ向陽ノ地ニ好ンデ生育スルモノデ、東京地方ニテハ前者ヨリモコノ方ガ普通デアアル。
- 2) 根 肥厚シタ太イ根ガ地中深ク這入ツテ居ル。
- 3) 葉 莖葉ニアル毛ハ絹毛狀デ、前者ニ比シ其量多ク、葉質モ一般ニ厚イ。

形狀ハ卵狀披針形又ハ卵狀橢圓形デ葉脚ハ圓或ハ鈍或ハ銳形、葉頭ハ銳形、又ハ銳尖形デ一般ニ前者ニ比シ丸味ガアル。

4) 萼片ノ長サ 5-5.5mm.



第4圖 ひなたるのこづち *A. Fauriei* LEV. et VNT.  
ノ花期ノモノ (東京上野公園産)

5) 萼片ト小苞片ノ長サノ割合 果時ニ於テ 5:3.5 位。

6) 小苞基脚ノ突起 前者ニ比シ小形デ顯著ナラズ。(第5圖1)

7) 假雄蕊 花絲間ニ顯著ニ突出シ、殆ンド全縁ニ近イガ花時ニハ不整齒牙狀ヲナスモノモアルガ後ニハ全縁ニ近クナル。(第5圖2,3,4 WOGHT ノ Ic. Ind. Orient. ノ *A. bidentata* ノ圖ノ假雄蕊ニ似タ形ヲシテ居ルガ、小苞ト萼片ノ長サノ割合等ノ差ヨリ見テモ同一種トハ考ヘラレナイ。尤モ、開花期ノ頃ハ花序モ短ク卵形或ハ圓柱形ヲナシ、萼片ト小苞ノ長サノ割合モ大差ナク、萼片ガ僅カニ長イノミデアルガ、花後伸長シテ約 5:3.5 位ノ割合トナル (第5圖)。

LEVELLE ガ *A. Fauriei* トナセルモノハ FAURIE 師ガ青森ニテ採集セルモノデ、原記相文ハ頗ル簡單デ僅カニ2行半ニ過ギナク “Differt ab *A. bidentata* et ab *A. aspera* foliis amplis petiolatis, non longe acuminatis, nec tamen obtusis, spicis compositis, elongatis, linearibus, gracilibus, utriculo angulato” (in Bull. Soc. Bot. France, LI, p. 422 [1904]) ト記スノミデアルガ、葉ノ廣キ事、長キ銳尖頭ヲナサザル點ヲツカマヘテ、此處ニ記シタ形ノモノニ

當テヨウト思ウノデアル。斯ル簡單ナ記載ダケデハ、果シテ此處ニ言フモノト同一種ナルカドウカハ斷言ハ出來ナイガ、本種 = *A. Fauriei* ヲ當テタノハ上述ノ理由ニヨルノデアル。尙此ノ學名ハ從來本邦ノ學者ヨリハ不問ニ附サレテ居タ學名デアル。

### 和名ニ就テ

次ニ和名ノ問題デアルガ、從來ハ2種ヲ混同シテ居タノデアル(本草綱目啓蒙ニハ現在稱スルやなぎゐのこづち *A. longifolia* MAKINO 等ヲも含メテ色々な形ノモノヲ記シテ居ル)ガ、東京地方ヤ、奥羽地方ニテハ最も普通ニ路傍等ニ見ラレルモノガ *A. Fauriei* LEV. et VANT.

和名ヲ用ヒタイガ飯沼慾齋翁ノ草木圖説ノ圖ハ *A. japonica* NAKAI ノ方デアルシ、又現今ゐのこづちトシテ本學名ガ一般ニ用ヒラレテ居ルカラ、混雜ヲサケ *A. Fauriei* ヲ新ニひなたゐのこづちト呼ブ事ニシタイ。

### 東京近郊ニ於ケル兩種ノ採集地

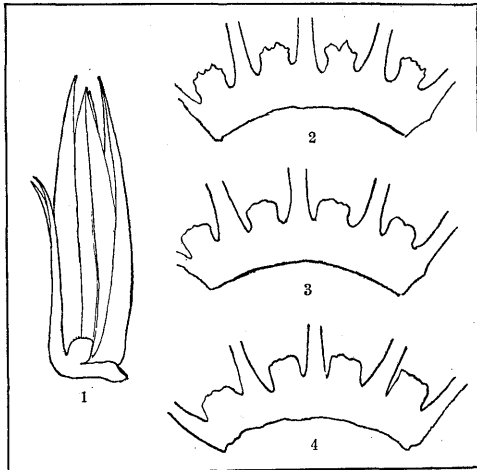
此處ニハ東京近郊産ノモノデ、自分ノ採集シタモノ及ビ科學博物館所藏ノ標本ニ基キ產地ヲ下ニ記シテ參考ニ供フルコトニスル。

ゐのこづち *Achyranthes japonica* (MIQUEL) NAKAI in Bot. Mag. Tokyo, XXXIV, p. 39 (1920).

採集地：東京 (Mus. no. 5339)、武藏嵐山 (S. OKUYAMA Mus. no. 100895)、子ノ山 (K. HISAUCHI Mus. no. 100892)、高水山 (S. OKUYAMA Mus. no. 100870)、袋 (S. OKUYAMA Mus. no. 100912)、世田ヶ谷 (M. SUDA Mus. no. 100893)、横濱 (K. HISAUCHI Mus. no. 100894)。

ひなたゐのこづち *A. Fauriei* LEVELLE et VANIOT in Bull. Soc. Bot. Fr., LI, p. 422 (1904).

採集地：石神井 (S. OKUYAMA Mus. no. 100914)、武藏嵐山 (S. OKUYAMA



第5圖 ひなたゐのこづち *A. Fauriei* LEV. et VNT.

1. 武藏石神井産ノ果實(苞ヲ除ク) 2-4 假雄蕊  
2. 上野公園産(9月1日) 3. 同上、同株(10月14日) 4. 岩代産(果期ノモノ) × ca. 30

Mus. no. 100916) 赤羽 (S. OKUYAMA Mus. no. 100915)、上野公園 (S. OKUYAMA Mus. no. 100917)、世田ヶ谷 (M. SUDA Mus. no. 100920)、澁谷 (K. HISAUCHI Mus. no. 100918)、横濱 (K. HISAUCHI Mus. no. 100919)。

現在マデ自分ノ見タ標本ヨリ云ヘバ、ゐのこづちハ南ハ九州ヨリ本州中部日光邊マデ、ひなたゐのこづちハ本州ノ北部ヨリ四國ニマデ及ブ様デアル。

## アノ頃ノ思出 (早田先生ト高尾山ト私)

本 田 正 次

M. HONDA: The memoirs of the late Prof. Hayata

私ガ植物學教室ヲ初メテ訪レタノハ大正七年ノ九月ナカバ、一日モ早ク憧レノ大學ノ講義ヲ聽キタイモノト、先ヅ恐ル恐ル正面ノ玄關ヲ這入ツテ直グ右側ニアル揭示板ノ文字ヲ讀ンデ居ルト、背後ノ小使部屋カラ一人ノ小使ノ爺サン(今思フト本多ト云フ小使ニ違ヒナイ)ガ出テ來テ、「一年生ノ方ナラバ早田先生ト云フ御方ガイロイロ面倒ヲ見テ下サルコトニナツテ居マスカラ其ノ先生ニヨク御聞キニナツタライデセウ」ト親切ニ注意シテ呉レ、ワザワザ揭示板ノ隣リニアル早田先生ノ室ニ自分デ這入ツテ同先生ヲ室外マデ呼ンデ來テ呉レタモノダ。ソコデ私ハ早田先生ト玄關デ初對面ト云フ譯、同先生ハ當時講師デアツタ。多分「カーキ」色ノ軍服見タ様ナモノヲ着テ居ラレタカト記憶シテ居ル。初對面ノ私、勿論大學ノ先生ノ顔ヲ見タノモ初メデアル。同先生ハイキナリ私ニ「明日ハ野外デ實習ヲシマセウ。場所ハ高尾山、午前七時マデニ飯田町驛ヘ集ツテ下サイ。胴亂ト辨當ヲ忘レナイ様ニ」ト云ハレタ。私ハソノ時實ニ驚イタ、流石ハ植物學ヲ専門ニヤル所ダ、最初ノ日カラ植物採集トハコリヤー有リ難イト思ツタ。翌日示サレタ時間マデニ飯田町驛ヘ行ツテ、ソコデ同時ニ入學シタ級ノ人々トモ初メテ會ツタ譯ダ。淺川ノ驛ニ下車シテ先生ハ直グ驛前ノ右側ニアル茶店ニ這入ラレタノデ我々モ後ニ續イテ這入ツタ。先生ト餘程懇意デアラシイ、茶店ノ主人ガ出テ來テ、イロイロ話シカケル。先生ハ其處デ靴ヲ草鞋ニ履キ換ヘラレタノデ、高尾山ガドノ位險峻ナ山デアルカヲ知ラナイ我々モ亦先生ノ眞似ヲシテ草鞋ニ履キカヘタモノダ。ヤガテ先生ハカネテ預ケテアルト見エテ主人ニ命ジテ枝切り用ノ長イ竿ヲ奥カラ持チ出サセ、ソノ先ニ鎌ヲ